

# 柳川市「川下り」の成り立ちとその発展

## 4 回生 鈴木美緒

### 1. はじめに

観光客が船に乗り景色や周辺の歴史や自然を楽しむ遊覧船は、日本各地に存在する。大型の船舶を利用するもの、渡し船などのその地の歴史を再現・利用したもの、ボートやカヤックを使い激しい水流を進むスポーツ色の強いものなどがあるが、その中でも少数の乗客が乗る小舟を船頭が操り、景勝地の風景と船頭の案内を楽しむ遊覧船が、福岡県南西部に位置する柳川市に存在している。本研究においては、この柳川市の川下りに着目し、その概況や実態を調査・考察する。

なお、この調査は筆者が3回生時の2019年に行ったものである。

### 2. 柳川市「川下り」の概要とその歴史

柳川市に存在する遊覧船（以降、「川下り」と呼称する）は、前項で言及したとおり、小型の船舶を船頭が長い竿で操り、周辺の景色や船頭の案内を楽しむものである。柳川市にはかつて柳川城の掘割であった水路が残っており、柳川市の川下りはこの水路を利用している。この柳川市の川下りは、青森県弘前市の「中濠観光舟」や島根県松江市の「堀川遊覧船」などの、日本各地に存在する類似の観光事業の参考にされている。図1は柳川市を訪れた観光客の観光消費額の内訳であるが、消費金額の順位として食事、土産代、宿泊費の次に位置するほど、川下りは柳川市の観光を大きく支えるものであることがうかがえる。

まず、この川下りの歴史について述べる。これらについて、簡易にまとめたものが表1である。明治以降、柳川市に残された掘割は地域の人々の交通手段や子供たちの遊び場として機能していた。この間、地域の人々がごく個人的に利用する「どんこ船」はあったものの、観光資源として利用されることはなかった。ところが、1954年に柳川市出身の詩人・北原白秋の幼少期を描いた映画「からたちの花」が公開され、作中で描写された川遊びが注目を浴びることとなった。そこで、柳川商工会議所が地域おこしとしてこのどんこ船を使った川下りを開始したのが、現在運営されている川下りの始まりである。その後、観光資源である掘割の水質改善を目的とした「都市下水路改革」などの行政側からの取り組みが行われる。1961年には柳川観光開発(株)が川下りの営業を開始した。表1にある1975年に参入した2社は今回聞き取りに伺った2社である。なお聞き取り調査によると、初めに開業した柳川観光開発(株)の本社が柳川市ではなかったため、市内の会社が立ち上がったとのことである。現在、柳川市で川下りを運営している会社は5社あるが、この経緯が柳川市の川下りに複数の会社が存在する理由の一つでは

表1 柳川市川下りの歴史

年	出来事
1954	映画「からたちの花」柳川市ロケ
1955	柳川商工会議所、地域おこしとして川下りと鰻のせいり蒸しを開始
1961	柳川観光開発(株)川下り営業開始
1971	「都市下水路計画」
1975	(株)大東エンタープライズ・水郷柳川観光(株)参入
1977	「河川浄化計画」議決
1980	掘割浄化のための工事が完了
2017	川下り利用客数、年間42万人を突破(過去最高) 地域おこし協力隊募集
2018	市職員13名が船頭研修を開始

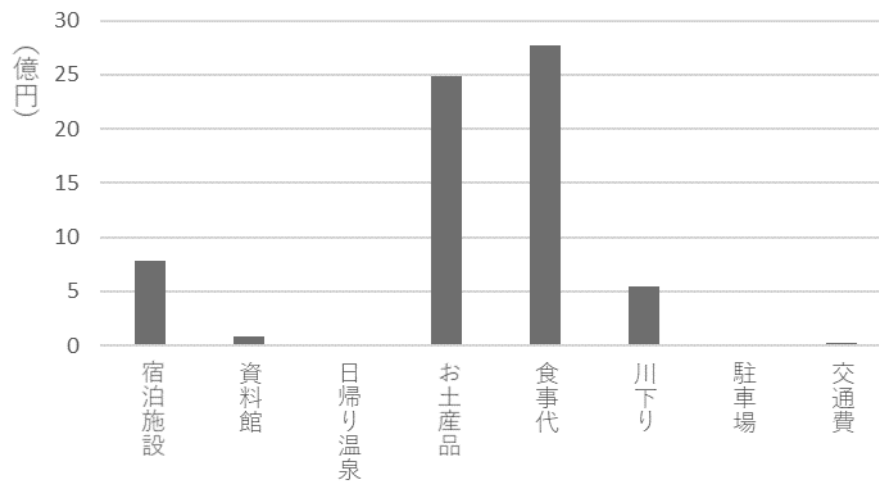


図1 柳川市観光消費額内訳

(「2017年柳川市観光動態調査」及び「第二次柳川市観光振興計画」より作成)

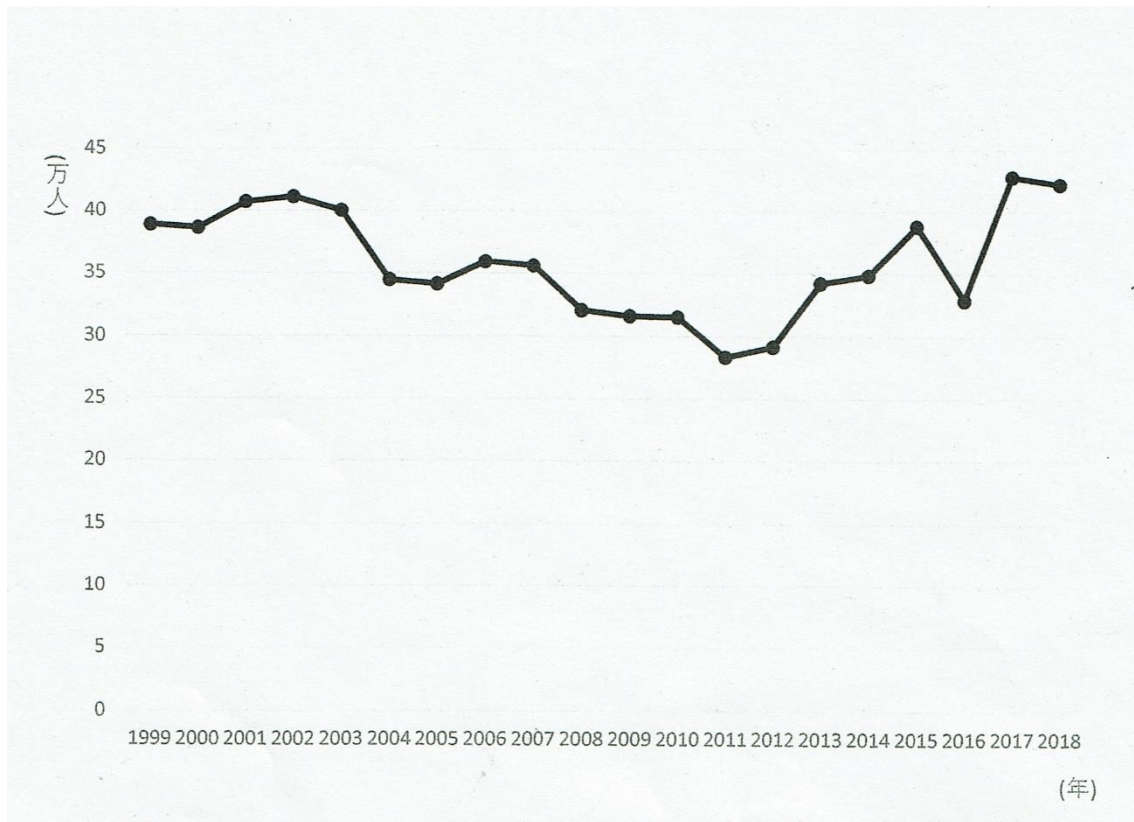


図2 柳川市川下り利用客数の推移  
(柳川市観光動態調査より作成)

ないかと考えられる。その後、2017年には川下りの利用客数が、過去最高の年間42万人を突破した(図2)。しかし、船頭の高齢化による人員不足が危ぶまれており、表中にあるように地域おこし協力隊の募集や、市職員の船頭研修などが行われている。

次に、現在川下りに関連して行われているイベントについて述べる。表2に示したとおり1年にわたって様々な行事が行われている。2月から行われる「さげもんめぐり」とは、柳川地方の初節句の際にひな壇とともに飾られる色とりどりの「さげもん」と呼ばれるものを、観光施設や店舗などの市内各所に飾り付ける催し物である。この期間中は「さげもん」を市内各所で見ることもできるほか、「おひな様始祭」「流し雛祭り」「おひな様水上パレード」などの催しも開催される。11月には、11月2日の北原白秋の命日を中心とした「白秋祭」が催され、水上パレードなどが行われる。図3に川下り利用客数の月別推移を示したが、ピークとなる3月と11月はこの2つのイベントが影響していると考えられる。また、2月の中旬から下旬に行われる水落とは、堀の水をすべて抜いて清掃を行うものだが、この期間中は川下りの営業区間が極短いルートとなる。そして再び水を入れる際は、川下りの1年間の安全を願う神事「お堀開き」が行われ、春の観光シーズンを盛り上げる。この2つのイベントも柳川市の川下りにおける特徴的な

表2 主な川下り関連イベント

時期	イベント
2/11～4/3	さげもんめぐり
5/3～5/5	沖端水天宮祭
5月下旬～6月上旬	花しょうぶ 見頃
7月中旬～9月初旬	納涼船「灯り船」
11/1～11/3	白秋祭水上パレード
1/25	白秋生誕祭
12月～2月末	こたつ舟
2月中旬～下旬	水落
3/1	お堀開き

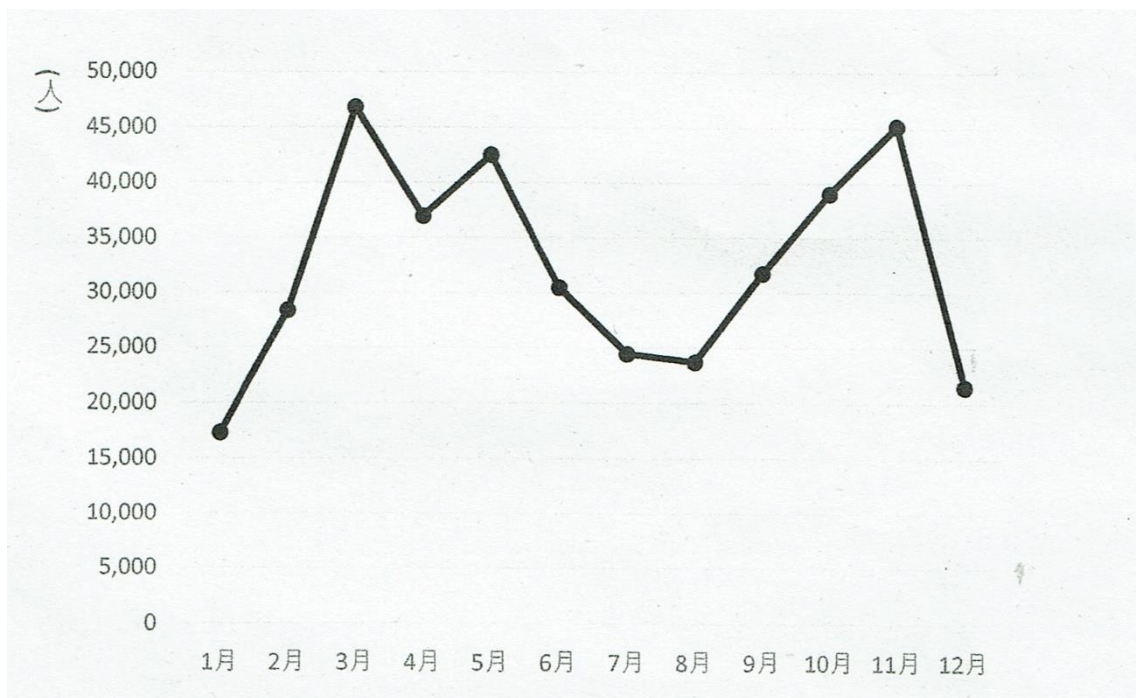


図3 柳川市川下り利用客数 月別の推移  
(柳川市観光動態調査より作成)

点であるといえる。

### 3. 運営する各主体による取り組みと現状

今回の調査においては、運営主体のうち行政側である市役所と柳川市観光協会、民間側である(株)大東エンタープライズ、水郷柳川観光(株)にて聞き取り調査を行った。

聞き取り調査によると、行政側が行っているのは主にハード面での取り組みである。川下りで利用されている護岸の整備をはじめ、沿岸のうち公道にあたる街路樹などの整備、旅行博などでのPR活動、誘致活動、首都圏でのキャンペーンなどは市役所と観光協会が主に行っている。また、船頭の高齢化や離職などでの減少への取り組みとして、市報やHPでの公募のほか、市役所職員が船頭研修を行うなどを行っている。職員の方は川下りの発展についての行政側の見解として「規制が特になく、様々な許可が取りやすい」ということを挙げられていたが、民間での取り組みに対して柔軟かつ寛容に対応されてきたということも、発展の中で重要な役割を担ったのではないだろうか。

次に、民間側が行っていることは、まず川下り自体の運営である。柳川市で川下りを運営する会社は5社存在し、そのうちの2社に聞き取り調査に伺った。(株)大東エンタープライズは、川下りとともに飲食店の運営も行っている会社である。聞き取りによれば、同社は44~45隻の船を有しており、従業員は30人、そのうちの20人が船頭である。川下りの利用と飲食の利用を比較すると、人数的には10:6ほどで、売り上げ的には10:8であるという。また、営業を開始したのは川下りが先であるということだ。対して水郷柳川観光(株)は、基本的に川下りのみを運営している会社である。約55隻の船を有しており、常勤の船頭は16名、さらにイベント時などでの増員として16名ほど居るといふ。図4は聞き取りに伺った2社の運行図を示したものである。柳川市の川下りは各社細かいコースは違うものの、基本的に西鉄柳川駅周辺から出発し、通称御花とよばれる柳川藩主立花邸を終着点としている。航路はこの一方通行であるが、聞き取りに伺った2社とも西鉄柳川駅までの送迎バスを運行していた。船頭が船上で話す内容は、基本的にそれぞれ違うため、新情報の共有や、インバウンドで特に多い韓国人向けに、韓国語の練習をするなどの取り組みを行っている。また船頭については、普段から船頭として働いている人以外にも、かつては川遊びが当たり前に行われていた、さらに有明海でのノリ漁業に従事する人々が船を操れる、などの理由で、イベント開催時などでの増員ができていたのだが、収穫方法の変化などに伴い川下りで使用している船を操ることができる人そのものが減少している、という興味深い話も伺った。

また、沿岸の水上売店、枕島菖蒲園も民間の人々が行っていることである。実際に川下りに乗ると観光案内図などに記載がない場所にも、個人的に行ったことや物を川下りの見所として残しているのが見受けられた。船を運航している企業以外にも、多くの住人が積極的に柳川市の川下りに関わっていることが伺える。

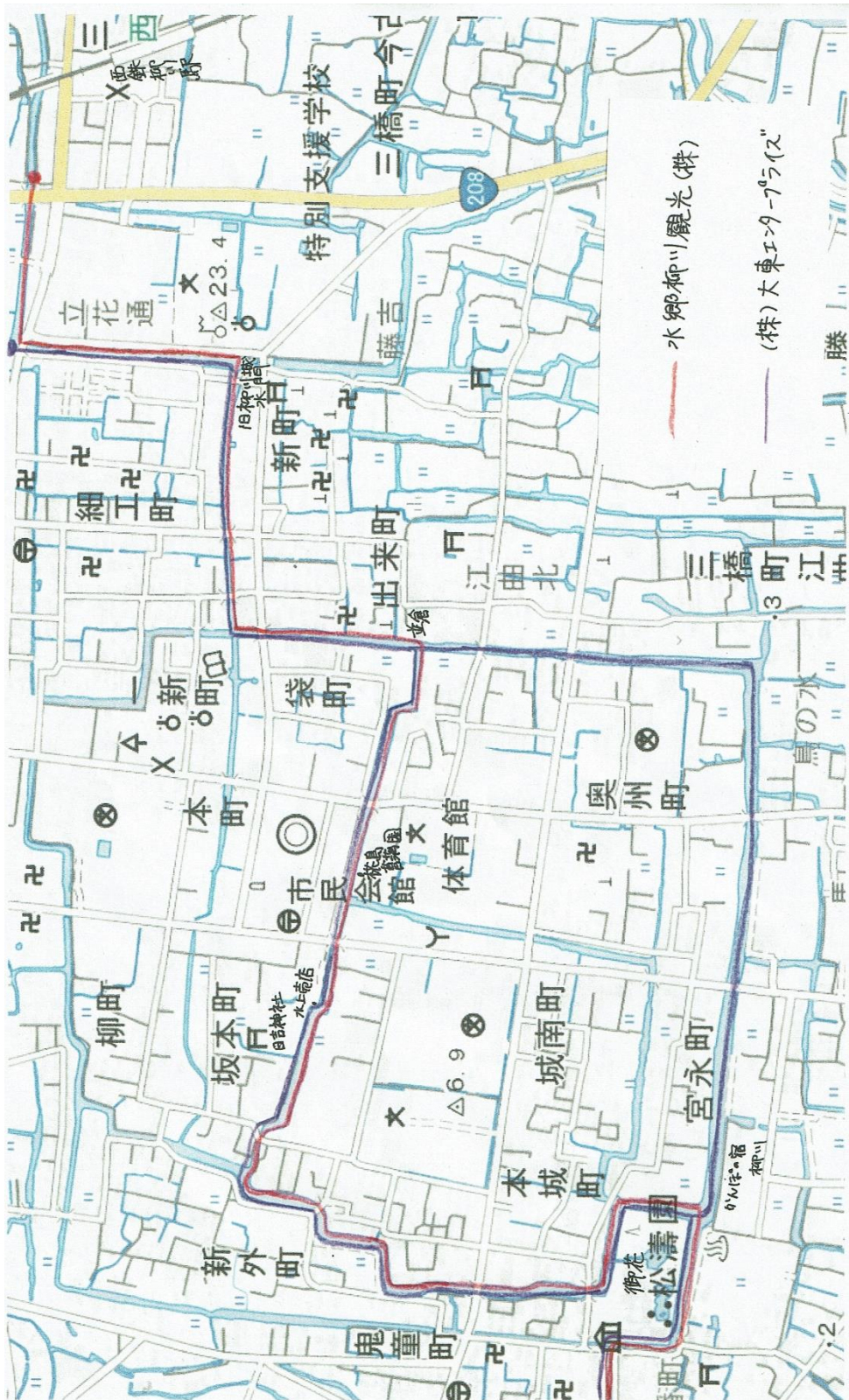


図4 川下りコース図  
 (国土地理院地図より作成)

#### 4. おわりに

これまで記述してきたように、柳川市の川下りは複数の運営会社によって運営されている。柳川市の川下りは日常生活の一部であった時からのイベントが現在も残っているなど、様々な特徴を備えている。その中でも、川下りの立ち上げから現在に至るまで、民間の人々が主体的かつ精力的に活動している。聞き取り調査からも、川下りを営業する人々の試行錯誤だけではなく、沿岸の見所を増やそうという試み、新たなイベントを興そうという動きなど、現在でも川下りというコンテンツを発展させようとする熱意が感じられた。こうした地元の人々によって大いに支えられているという点が、柳川市の川下りで最も大きな特徴といえるのではないだろうか。

#### 付記

本稿を作成するにあたり、柳川市役所観光課様、株式会社大東エンタープライズ様、柳川観光開発株式会社様には、お忙しい中にもかかわらず大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

- ・柳川市 HP (<https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/home.html>, 最終閲覧日 2022 年 2 月 9 日)
- ・柳川市観光動態調査  
(<https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/library/download/02kanko/doutaityousa/201901-12.pdf>, 最終閲覧日 2022 年 2 月 9 日)
- ・第二次柳川市観光振興計画  
(<https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/library/download/02kanko/kankoplan/dainijikankoshinkoplan.pdf>, 最終閲覧日 2022 年 2 月 9 日)

